

1 学校教育目標
本校の三綱領「自主積極・廉恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力のみなぎる存在感のある学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 生徒・保護者の期待に応える進路目標の達成 (2) 三学科(普通科・理数科・美術科)の充実と特色ある学校づくり (3) 人権尊重と三綱領の精神を体現する生徒の育成と個性の伸張 (4) 職員の資質及び組織力の向上と学校の活性化

3 自己評価総括表		評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成		「早朝学習」を行い、自学自習の習慣を定着させる。	進路指導部が企画し、各学年・教科と連携し運営する。生徒の学力に合った課題の準備及び事後指導を行う。	3	計画通りに実施することができた。早朝学習をする意義についてもっと説明する必要性を感じている。遅刻、欠席の生徒が固定化している。5分前着席の習慣づけが不十分であった。
		読書の習慣化		「朝読書」を行い、読書習慣の定着を図る。	生徒と一緒に全職員も取り組む。図書部がアンケートを実施し、改善に努める。	3	学年の積極的な協力と指導により8割程度の生徒には定着が見られ、読書習慣が身についた生徒が育っている。職員の場合は、学年の連絡等で十分な時間がとれず徹底が難しい現状が多々あった。職員には可能な限り、朝読書に取り組んでもらいたい。アンケートに関しては近日中に実施し、結果を読書委員会で検討し次年度に活かしていくつもりである。
		SSHの推進	国際社会で活躍できる科学技術系人材を育成する。	地元大学を中心に研修や体験授業、外国人研究者による講義等を実施する。	3	英語科職員の協力で、JSPSフェロー講義や英語での理科実験授業をとおして生徒のリスニング能力を高めることができた。また、地元大学での実験・実習についても、生徒の科学的素養や進路意識を高揚させることができた。これまでのSSHの成果や課題を踏まえ、来年度以降は新しいカリキュラムや指導法を開発する。新しいSSH事業の推進を図るために、組織、評価等の検討が必要である。	
	教育課程の工夫	生徒の学力向上に繋がる教育課程の編成	普通科、理数科、美術科の各学科の特色に応じた教育課程を編成する。	教務部を中心に、生徒の現状や各科目・各教科からの意見を踏まえ、教育課程委員会で検討する。	3	新学習指導要領等を踏まえ、各学科の特色や生徒の進路状況の実態に応じた新しい教育課程の編成に取り組んできた。更に、学習や進路環境の情報を取り入れながら、平成23年度には新学習指導要領に基づいた教育課程を作り上げる。	
		総合的な学習の時間(GL)の推進	体験的な学習を通して、課題解決や探究活動に主体的協同的に取り組む態度を育成する。	課題ごとにグループを編成し、図書館やコンピュータ教室等を活用した授業を行う。	3	概ね計画的だった。生徒たちは各自の課題を実際に動いてまとめることが出来ていた。発表の仕方でも工夫し、他グループの考えも知ることが出来た。但し、副担任一人で様々な分野の8、9グループ、40人強にアドバイスすることは厳しいので、全学年を興味のあるグループに分けてクラスや学年を越えた担当とすることを検討する必要がある。	
	学校行事の運営	学校行事の円滑な運営	早めの計画、周知徹底を行い、円滑な運営に努める。	総務部を中心に月毎に各分掌・学年及び行事担当等と密接な連携を図り、調整を行う。	3	計画的に実施できた。職員用・生徒用・HP掲載用と作成して、用途に応じた発信をすることが出来た。ただ、行事等の連絡や調整が不十分な点がある。さらに各部との連携・調整が必要である。	
	開かれた学校づくり	情報の公開・発信	HPや学校通信で学校の現状や案内などを適切に発信する。	学校HP・進路だより・学年便り・二高会報を活用し、情報を定期的に発信する。	3	本校のHPは各分掌で作成することを原則としているので、分掌間の格差が現れたが、必要最小限の情報発信は出来たとする。ただ各部作成のパンフのPDF化は出来なかったので次年度の課題となる。	
		保護者・地域等との連携	PTA・学校評議員・同窓会等と連携し、協力体制を構築する。	年6回PTA理事会、年2回学校評議員会を開催する。行事等への参加案内を密に行う。	4	PTA・同窓会との連携は種々の学校行事などにおいて深めることができた。日頃の地道な交流によって学校教育への理解と協力が得られた。学校評議員会では本校のより良い発展のために客観的な意見を頂くことが出来た。これらの連携をさらに深めて本校の教育活動に生かさなければならない。	
		学校評価の充実	学校評価を行い、学校教育活動全般の改善に努める。	研修部を中心に自己評価を12月、学校関係者評価を2月に実施し、次年度初めに結果を公開する。	3	評価項目の精選と具体化により、評価の観点がわかりやすくなった。しかし、自己評価の具体的目標や方策に関して全職員への周知が徹底しなかったため、その目標へ向けての取り組みにはつながりにくい面があった。今後は、更なる周知を図る。	
	安全管理の取組	健康教育の推進	生徒の性意識の実態を把握し、性教育の充実を図る。	生徒にアンケートを実施し、実態の把握を行う。外部講師による講演会を企画する。	3	6月にアンケートを行い結果分析まで行うことができ生徒の実態把握をおこなうことができた。また、性教育講演会も産婦人科の医師を招聘し行うことができた。11月に再度アンケートを行い、生徒の性について望ましい方向への意識変化が見られた。今後、家庭で性について話すことのできるきっかけ作りとして保護者にも講演会への参加を呼びかけていきたい。	
積極的な予防接種の実施を促す。			保健だよりを年間4回以上発行し、情報を提供する。健康観察の充実を図り、感染者入力システムへの早期入力の徹底を行うことにより、感染状況の情報共有を図る。	3	保健だよりは、季節に合わせた話題や流行している事について取り上げ計画的に発行することができた。感染者入力については、流行期には入力早い時期でない時期には入力遅い事もあり、常に全員で情報を十分共有できるとは言い難い。		
施設設備の保守・点検		施設・設備不備による事故の撲滅を図る。	年3回校内点検を実施する。安全管理に関する研修を行う。	3	教室・特別教室等のエアコンの点検改修工事はスピードをもたせて実施した。しかし、危険箇所の改修には予算の兼ね合いもあり、出遅れの感があった。今後の課題である。安全管理の研修は特に実施しなかったが、工事に関する予告は早めに生徒・職員に周知した。		
学力向上	授業改善の取組	授業評価の推進	授業評価を行い、授業改善に繋げる。	教務部が立案し、7月及び12月に生徒を対象に実施する。	3	授業評価については計画通り年2回実施できた。結果については、生徒へ結果や感想をつたえるという個人だけの保有ではなく、各教科で統一した学習指導ができるように共有し、教科担当者一人一人の授業力の向上のために活用する。	
	自学自習の充実	宅習(予習・復習)の習慣化	宅習時間の推移を把握し、家庭学習の指導に活かす。	教務部で立案し調査する。1・2年(年3回)、3年(2回)の調査結果を踏まえ、担任は面談を行う。	3	宅習時間の定着という目的は概ね達成されている。生徒に課す課題の量を増やすことではなく、より質を意識した家庭学習の指導及び提示を普段から心がける必要がある。	
進路指導	キャリア教育の推進	進路実現に繋がるキャリア教育の展開	進路講演やキャリアガイダンスを実施し、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせる。	進路部で立案し、学年ごとに進路講演会を実施し、事前・事後指導を行う。ガイダンスでは、1年は職業別、2年は学問系統別に講師を招聘する。	3	ガイダンスや講演会後は進路指導室で調べ学習をする生徒も増加し、大変好影響を与えることができた。ただ、1つ1つの企画が単発で終わっており、今後はもっと継続性をもたせる必要がある。	
	進路目標の実現	個に応じた進路指導の推進	三者面談を実施し、希望や課題等を的確に把握する。	全生徒を対象に計画的に三者面談を実施する。学年と連携し事前研修を行い、面談後課題の共有に努める。	3	計画的に実施できたが、面談場所の確保が大変であった。面談前の事前指導、面談後の情報の共有などももっと工夫する必要がある。今年度は3年生のみ、冬の三者面談後に学年主任と進路指導主事が各担任と情報を共有する機会を設けた。	
	進路情報の発信	進路だより及び進路のてびきの内容充実	正しく分かりやすい情報を提供し、進路実現の一助とする。	進路だよりを年3回、進路のてびきを年1回発行し、保護者会時に配付し、ポイントを押さえた説明を行う。また、職員研修を行い、三者面談・家庭訪問で活用する。	3	事前研修などを行い、資料活用の周知も十分に行い、計画的に実施できた。2年次に保護者会がないため、来年度は導入を考えたい。進路だより、進路のてびきについては個人情報観点からデータ活用を許可しない生徒も年々多くなってきているので、今後資料作成については検討の必要性がある。	
生徒指導	基本的生活習慣の徹底	積極的な生活指導の展開 交通マナーの向上	生活に関する各種の指導を徹底する。	登校指導(毎日)、下校指導、自転車点検・服装検査を実施する。	2	登校時に生徒部と副担任を中心に、正門等で挨拶と服装・交通指導を行ってきた結果、服装や交通マナーはある程度きちんと出来ていると考えられる。しかし、挨拶に関しては、まだ声が小さい。次年度の課題として、生徒部・学年だけでなく全体で取り組む必要がある。	
	環境美化の取組	清掃活動の推進	校内及び学校周辺の美化活動を推進する。	美化委員による清掃点検(学期2回)を行う。	3	早朝から部活動生を中心にボランティアとして、毎日清掃活動が出来ており、今後も継続していくべき良い慣習と言える。ただ課題は通常の掃除である。一生懸命取り組む生徒とそうでない生徒の格差は否めない。校内美化は学校全体の課題であると捉え、全職員・全生徒で、美化について考える必要がある。	
	生徒会活動・部活動の取組	生徒会活動・部活動の活性化	生徒による自主的で円滑な運営を支援する。部活動加入率を上げ、定着を図る。	役員を中心に計画の段階で適切な指導、助言を行う。あらゆる機会に部活動の意義を訴え、顧問による指導を充実する。	3	生徒会活動は生徒会役員を中心として、活気があるといえる。更に生徒と教師の連携を深め、より良い生徒会活動が出来よう学校全体で考えなければならない。部活動に関しては、おおむね良好であるが、女子生徒の加入率がやや低く、次年度の課題として捉える必要があると考える。	
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	教職員の人権意識の向上	校内研修などを通して、職員の人権意識の高揚を図る。	人権教育推進委員会で研修について研究する。	2	人権教育のLHR等は同時に職員研修の場にもなるが、機会を活かそうとする姿勢に乏しいように感じられる。生徒への言葉かけや配付物などの言葉の用い方等、職員の人権意識を高めていきたい。	
	不登校傾向の生徒に対する適応指導の充実	不登校傾向の生徒に対する支援	長期休業中に補講を実施し、個に応じた指導を行う。	教務部で立案し、年4回(夏期・秋期・冬期・学年末)休業中に行い、生徒の基礎学力を養う。また、特別支援教育対策委員会の活動を通して関係職員との連携を密にする。	3	補講等を含めて様々な方策で個に応じた指導を目指し、生徒の支援に努めてきた。また、教育相談部会・校内特別支援対策委員会・職員研修会を通じて、特別な配慮を要する生徒についての情報交換に努め、学校全体の特別支援教育に対する理解も深めることが出来た。今後は、登校しつらおよび不登校傾向生徒に対する早期対応をより促進するためのシステム作りについてさらに努力していきたい。	
理数科・美術科の充実	理数科の充実	教育課程の研究	新しい学習指導要領に応じた特色のある理数科の教育課程を編成する。	文科省及び先進校の情報を積極的に収集し検討する。	3	SSH指定を受けて8年目。課題研究、出前講義、九州大学、熊本大学などでの研修、英語で科学実験等を通して、自然科学への興味、関心が高まった。また、プレゼンテーションの能力も身につけてきた。しかし、英語の力はまだまだであり、今後英語の授業を通して会話力をつけさせるのが課題である。	
	美術科の充実	実技力の向上	制作・発表環境を整え、実技力の向上に努める。	技能習得のための学習会、校内コンクール等を実施する。各種公募への出品を促進する。	3	進路学習会、実技講習会、作品展などを通して実技力向上への意欲が高まっている。公募展の実績も良好である。テッサン室での自主トレーニングも定着している。ただし、生徒によって制作頻度や技能面での差が生じている。基礎に関してはクラス全体で、短期間での課題を反復させる必要がある。	
		広報活動の充実	県下唯一の美術科のアピールに努める。	「美術科だより」を発行し、職員や保護者に配付しHPに掲載する。	4	美術科ホームページを開設し、新鮮かつ詳細な情報発信ができるようになった。中学生体験入学や作品展の参加・観覧者も多く、目標を達成した。美術科制作展の10月実施がまだ浸透していない。報道機関の活用と早期案内に努めたい。	

4 学校関係者評価

- ① 第二高校は自転車通学生が大変多く、通学時の接触事故等が多発しているということだが、県全体でも高校生の自転車事故が増加している。交通安全教育の更なる充実を図って欲しい。自転車の二重ロックは取組の成果がうかがえる。
- ② 中学生やその保護者などは高校のホームページ（HP）で情報収集をするケースが多いので、HPによる宣伝は効果的。ホームページを充実させ、広報に努めて欲しい。
- ③ P T A 総会の出席率が高いというのは学校への信頼と期待が高いということ。実際に保護者の意識も高く、P T A 活動にも協力的。一層の連携を深め、第二高校の発展につなげて欲しい。
- ④ S S H の取組は魅力的であるが、認知度が低い面があるので大いに広報した方がよい。また、理科離れを防ぐためにも、科学教室など小中学生との交流をお願いしたい。
- ⑤ 美術科生徒の活躍は素晴らしい。中学校でも美術部がある学校が多く頑張っている生徒が多い。そのような生徒が数多く第二高校の美術科で専門的に学んで欲しい。

5 総合評価

- ① 「学校経営」については、P T A をはじめ関係者の理解と協力を得て概ね良好であった。今後とも、「特色ある学校づくり」「開かれた学校づくり」に重点を置きつつ更なる努力を続けていきたい。
- ② 「学力向上」及び「進路指導」については、生徒の進路目標実現に向け従来からの取組を発展させることができた。また、今年度から難関大学入試対策などの新たな取り組みを行ってきたが、必ずしも十分な成果があがっているとは言えない。
- ③ 「生徒指導」及び「人権教育の推進」については、部活動や生徒会活動など評価できる面が多々見られるが、一方で交通事故防止と交通マナーの向上、言動における人権感覚の向上などが課題として残っている。
- ④ 「理数科・美術科の充実」については、S S H 関連事業や各種公募展における美術科生徒の入賞など、本校の特色化に繋がる教育活動が展開された。しかし、中学生やその保護者などへの広報が不十分であった。

6 次年度への課題・改善策

- ① 本校の教育目標を達成するために、様々な角度から本校の課題を整理し、より一層の特色化を図る。特に、新しい教育課程編成を完成させるとともに、平成23年度から3学期制へと移行して学習活動や特別活動の充実を目指す。
- ② 3年間を通しての進路指導の在り方について再検証し、すべての生徒が自らの目標を実現できるような進路指導を行う。特に、難関大学を志望する生徒に対する指導のノウハウを確立するとともに、教師の資質向上のための研修を充実させる。
- ③ 交通安全教育の徹底が喫緊の課題であり、関係機関とも協力しながら生徒一人一人に浸透するような指導を行う。また、携帯電話の取扱い（マナーや情報セキュリティ）について指導が不十分なところがあるので、これまで以上に踏み込んだ指導を行う。
- ④ 本校の特色である理数科・美術科における教育活動の更なる充実と、その広報活動の展開を図る必要がある。このため、理数科についてはS S H の指定継続を目指し、本県における理数教育の拠点校的役割を担えるようにする。また、美術科については県下唯一の美術科としての役割を十分に果たしつつ、今年度立ち上げた美術科HP等を活用しながら広報活動に努める。